

「SDGsユニバーシティ シンポジウム ～連携 (Partnership) について～」開催

社会課題の解決に取り組む企業コンソーシアムのウェルネス・ライフサイエンス研究所は、2021年3月11日、産官学それぞれの立場からSDGsを考える「SDGsユニバーシティ シンポジウム」をシダックス・カルチャーホールとオンラインをつないで開催しました。3名のゲストスピーカーによるプレゼンテーションに加え、コミッショナーの志太社長を交えたトークセッションを通して、SDGsの取り組みの推進に向けた「連携」のあり方を語り合いました。



■開催のご挨拶

志太勤一

ウェルネス・ライフサイエンス研究所コミッショナー
シダックス株式会社代表取締役会長兼社長



「すべては未来の子どもたちのために」

東日本大震災から10年が経過しました。その間、日本や世界は大きく変わり、現在は新型コロナの影響も受け、今後、社会の変化はますます加速すると見られています。ウェルネス・ライフサイエンス研究所 (WLS 研究所) は、こうした社会変化を受け、これからの社会の健全な発展を支えるために企業が出来る活動を考えることを目的に設立された企業コンソーシアムです。本シンポジウムを主催するSDGsユニバーシティ実行委員会は、WLS研究所の活動の1つとなります。

社会課題は、1人では解決できません。WLS研究所では、多くの人や企業が協同することで解決につながる方法論が見つけれせるのではないかと考えています。こうした活動の方針は、サステナブル (持続可能) な社会を目指すSDGsの取り組みと一致しており、WLS研究所として「SDGsユニバーシティ」の取り組みをスタートさせました。

いま私たちは、未来の子どもたちのために、一步を踏み出すべき時期にいます。本シンポジウムでは、東日本大震災の日をあらためて思い起こしながら、「連携」をテーマとして、これからSDGsにどう取り組んでいくべきなのか、産官学それぞれの立場から意見を交換する機会としたいと思います。

■本シンポジウムの目的

笹谷秀光

SDGsユニバーシティ校長

新型コロナのパンデミックは世界を分断して、人々のマインドや企業活動に大きな影響を及ぼしています。いま私たちは「グレートリセット」が求められる大変革のただ中ですが、この難しい時代に羅針盤となるのがSDGsに他なりません。

これまでWLS研究所では、SDGsのスキームに基づいた社会変革に向けたプラットフォームを築き上げてきました。

当初、日本はSDGsの取り組みにおいて世界から少し出遅れていましたが、WLS研究所をはじめとした活動の推進もあって、今では日本でもSDGsの考え方は主流化しています。本日は産官学の皆様から最先端の事例を共有していただくとともに、SDGsの推進には欠かせない連携について考え、その成果を社会に広く発信していきましょう。



■シンポジウム概要

「SDGsユニバーシティ シンポジウム
～連携 (Partnership) について～」

日時 / 2021年3月11日

場所 / シダックス・カルチャーホール

(主催) SDGsユニバーシティ実行委員会

(共催) 国際連合大学 / ウェルネス・ライフサイエンス研究所

(後援) 渋谷区

<コミッショナー>

志太勤一 (シダックス株式会社代表取締役会長兼社長)

<ゲストスピーカー>

【産】 小路明善 (アサヒグループHD取締役会長兼取締役会議長)

【官】 長谷部健 (渋谷区長)

【学】 森内麻理衣 (上智大学4年・ミス日本ファイナリスト)

<ファシリテーター>

笹谷秀光 (SDGsユニバーシティ校長)

■プレゼンテーション



小路明善 (アサヒグループHD取締役会長 兼 取締役会議長)

〈飲料業界とSDGsの取り組み〉

当社の主要事業である酒類や食品などの製造販売は、まさに自然の恵みにより成り立っています。そのため、自然環境の保護は当社の責務と考え、ESG経営には注力しており、「環境ビジョン2050」では、2050年までに事業活動における環境負荷「ゼロ（ニュートラル）」を目指すとともに、独自技術を生かして社会に環境価値を創出（プラス）する、「ニュートラル&プラス」の発想の方針を掲げています。サステナビリティに関わる取り組みは最優先事項と位置付けて、サステナビリティを原動力とする、いわば「サステナビリティ・ドリブン」といえる企業経営を目指しています。

具体的な取り組みは多岐にわたりますが、例えば水資源に関しては、広島県にある社有林「アサヒの森」の保全活動により水の涵養（森が水を貯える能力）を進めています。2025年までに国内における水の使用量

と涵養量を同等にすることを目指しており、現時点で目標進捗率は95%に達しています。さらにプラスチックごみ問題も重視し、ラベルレス商品を積極的に展開したり、業界を超えた12社の共同出資で新会社「R PLUS JAPAN」を設立し、使用済みプラスチックの再資源化事業を行ったりしています。

企業が持続的に社会に貢献するためには、利益を出しながら活動を続けることも重要と考えています。アサヒバイオサイクルという会社では、長年の研究から生まれたビール酵母を活用した安全な農業資材を販売しています。さらに業界内外との協業にも積極的に取り組んでいます。企業、産業、国の枠を超えて取り組むことで、SDGsは必ずや達成できると信じています。未来は次世代のためにあるという考えのもと、これからも業界のリーダーシップを取って取り組みを推進していく所存です。



長谷部健 (渋谷区長)

〈渋谷区基本構想とSDGs〉

本日は、渋谷区政とSDGsとの関わりについてお話しします。渋谷区基本構想では、ダイバーシティ、インクルーシブな社会を強く意識し、渋谷区の未来像を「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」としました。そして、子育て・教育・生涯学習、福祉、文化・エンタテインメントなど7つの分野別基本構想を定め、それらに紐づき施策を展開しています。本日は各施策に関連するSDGsの目標を当てはめながらご説明いたします。具体例を挙げると、子どもや保護者が気軽に立ち寄れる地域の居場所として、シグックスをはじめとする様々な企業や地域の協力も得て、食事や学びの場となる「渋谷区子どもテーブル」という事業を推進しています。この活動により、目標1「貧困をなくそう」、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標11「住み続けられるまちづくりを」などへの貢献を図っています。

多様な働き方の推進にも力を入れています。例えば、障がい者支援・雇用拡大事業として、週20時間未満のショートタイムジョブを促進する仕組

みづくりや、シニア世代がいつまでも楽しく元気に活躍し続けられるように、経験や能力を生かせる機会や新たな学びの場の提供などに努めています。

まちづくりに関しては、現在、渋谷駅周辺では大規模な開発が進んでいます。交通動線の改善や災害に強いまちづくりのほか、SDGsや地域コミュニティの活性化などを意識した玉川上水旧水路緑道の再整備などにより、まちのブランド力の向上を図る考えです。ビジネスの文脈では、スタートアップ・エコシステムの構築を目指しています。産官学民連携のもと、起業にチャレンジしやすい仕組みの整備やスタートアップ企業と大学、他企業との協業推進などをサポートしています。

これからも区民の皆様をはじめ、渋谷を愛してくださる様々なステークホルダーの皆様とのパートナーシップを大切にして、こうした多様な事業を推進していく考えです。



森内麻理衣 (上智大学4年・ミス日本ファイナリスト)

〈私が考えるスポーツと金融のSDGs、そして日本文化〉

私は学生団体「SustainaSports」の代表を務めています。この団体の目的は、学生目線から、スポーツ庁の提唱する「スポーツSDGs」を捉え、その認知度を向上させたり、スポーツの力で社会を変えたりすることです。

国連による「2030アジェンダ」では、「スポーツは、持続可能な開発における重要な鍵」とされています。例えば、目標3「すべての人に健康と福祉を」では、運動やスポーツは健康問題の解決に寄与しますし、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」では、スポーツを通して意識改革を進めることでジェンダー平等につながるとされています。

サステナスポーツの活動の1つは、SNSを使った「#（ハッシュタグ）SportsSDGs」ムーブメントです。例えば、スポーツの道具に関する発信で、目標12「つくる責任、つかう責任」への意識向上を図ったり、誰にでもできるストレッチ運動の画像を発信し、目標3「すべての人に健康と福祉

を」への貢献を目指したりしています。

2つめの活動は、日本における「プロギング」といわれるゴミ拾いジョギングの推進です。ジョギングにゴミ袋を携帯することで、まちをきれいにしなが運動ができる一石二鳥のスポーツです。

今後、私が取り組みたい活動の1つが、スポーツと金融の融合です。私は卒業後、金融業界に就職する予定で、この先、スポーツマンシップを備えた人材育成や、金融業界における女性の地位向上、さらに金融機関の強みを生かしたスポーツ資源への投資や活用などにチャレンジしたいです。

いま自分たちにできるアクションを起こすことで、次の世代の未来をより良くすることができます。時には自分の目先の利益にならなくても、一人ひとりが暮らしのあり方を見直すことが必要だと思います。一緒にスポーツの力でSDGsの達成を目指し、世界をより良いものへと変えていきませんか。

■トークセッション

「実は、身近なことから様々な取り組みが生まれる」

笹谷 本日はよろしくお願いいたします。まず本業の強みを生かして社会貢献するという小路社長のお話が印象的でした。長谷部区長はその話を聞いてどうお感じになりましたか。

長谷部 渋谷区はスタートアップ企業が集まりますが、近年は福祉や教育など身近な課題を解決する社会的企業が増えています。本業を通して社会貢献をしたいという思いが根底にあるのでしょうか。

笹谷 WLS研究所にも、スタートアップ企業などを支援する仕組みがあります。

志太 WLS研究所が応援する企業は、SDGsに貢献する思いのあるアリーステージの企業です。企業や社会がSDGsを達成しようとする時、従来のやり方を変えていくのは難しく、逆に全く新しい方法を取り入れるほうが有効だと感じています。しかし、社内を変革するのは難しいため、まさに森内さんのような若い活力を吸収する方法が有効と感じており、ベンチャー企業の支援に力を入れています。

笹谷 森内さんは、長谷部区長のお話を聞いて

渋谷区に住みたくなりましたか？

森内 すごく住みたくなりました。大学進学時に福岡県から上京してきましたが、地方出身者にとって渋谷は憧れです。さらにSDGsの観点を取り入れて発展を続けており、ますます魅力を感じました。

笹谷 「ちがいを ちからに 変える街。」というキャッチフレーズも魅力的ですね。

長谷部 基本構想の策定ではコピーライターに入ってもらい、多くの人に対してエモーションナルに働きかける言葉を心がけました。

笹谷 小路社長は、森内さんのお話をどのように受け止められましたか。

小路 実は身近なことから様々な取り組みを生み出せるという、新たな気づきを得ました。スポーツを通してSDGsの取り組みにつなげるという発想は、我々の世代からはなかなか出てきません。

長谷部 スポーツに関してお話しすると、近々渋谷区では新たにスポーツ部という組織を設置する考えです(*)。もっと気軽にスポーツを楽

〈参加者〉

小路明善 (アサヒグループHD取締役会長兼取締役会議長)

長谷部健 (渋谷区長)

森内麻理衣 (上智大学4年・ミス日本ファイナリスト)

志太勤一 (WLS研究所コミッショナー・シダックス株式会社代表取締役会長兼社長)

〈ファシリテーター〉

笹谷秀光 (SDGsユニバーシティ校長)

しんだり、体を動かして気晴らしをしたりしてほしいという思いがあります。また、区内の企業と組んで学校の部活動をサポートする仕組みも整えていきます。シダックスさんにもお願いをするかもしれません。

志太 何かさせていただけることがありましたら、ぜひ。子どもたちにとってスポーツや部活動は大変重要ですが、我々大人が機会を用意しなくては、そもそも体験できません。森内さんがお話しされたように、スポーツは仲間意識ができたり、自分自身を高めたり、礼儀を重んじたり、SDGsの本質に近いのではないかと考えています。

*令和3年4月から設置。



「SDGsの取り組みは、語り合い、思い合うことから始まる」

笹谷 シダックスは「すべては未来の子どもたちのために」というテーマを掲げていますよね。

志太 それが当社の最も大切にしている理念です。それゆえ、SDGsへの取り組みに迷いはありません。いかに持続可能な社会を作るかということと当社の理念はイコールと考えています。

笹谷 今回のシンポジウムのテーマである「連携」に関してはどのような点がポイントと感じましたか。

森内 大学で周囲にはSDGsを知らない人は意外と多いです。まずSDGsについて広めて、なぜ取り組まないといけないかをしっかりと伝えたいと思います。その際には堅苦しい話ではなく、SNSなどを使って分かりやすい発信をしていきたいです。

長谷部 渋谷エリアは発信力の高さが大きな武器です。渋谷で新しい取り組みをすれば、他

地域へも広がるケースも多いですから、企業とも協働して積極的にチャレンジすることが、連携につながると考えています。

小路 個社ではなく共通の課題を持つ産業ごとに取り組むことが大事ではないでしょうか。それによりスピード感が上がり成果も大きくなる。そうした取り組みが様々な業界に広がると、日本全体のSDGsの成果となり世界に誇れるプラクティスとして評価されるのではないかと考えています。

笹谷 志太社長、本日のシンポジウムを総括していただけますでしょうか。

志太 3者それぞれの立場からご意見をいただいてトークを深められました。SDGsの取り組みは、語り合い、そしてお互いに思い合うことから始まると考えており、これからも皆様との語り合いを大切にしていきたいと思いま

す。また、3名のお話からインベティブであることの大事さを改めて感じました。持続可能な社会をつくるためには、誰もが従来とは異なることをはじめる必要があり、それを支えるために企業コンソーシアムなどにますます力を入れていきます。

笹谷 最後にワンワードでメッセージをお願いします。

森内 スポーツの力で必ず未来を変えます。

長谷部 「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」

小路 SDGsを生活に落とし込み、未来を創造しましょう。

志太 すべては未来の子どもたちのために。

笹谷 本日はどうもありがとうございます。この出会いを大切に、これからも連携を強めて取り組みを進めていきましょう。

■ウェルネス・ライフサイエンス研究所について

新しい価値を共に創りあげるプラットフォーム

ウェルネス・ライフサイエンス研究所（WLS研究所）は、社会を健全・健康に発展させる「ソーシャル・ウェルネス」の実現を目指して、シダックスの呼びかけにより2013年に設立された企業コンソーシアムです。

発足時より、会員企業のメンバーによるグループワークなどを通して、社会課題解決に向けた活動に取り組んでまいりました。社会の変化とともにその活動内容が徐々に変化していく中で、この先、SDGsへの取り組みをいっそう強化していくために、2022年度より「SDGs研究所」へと改称される予定です。今後も企業コンソーシアムの枠組みを継続し、SDGsの取り組みに注力していきます。

“一人や一社ではどうにもならない社会課題であっても、複数の企業が集まって対応することで解決できる”

そうした志のもと、これからも取り組みを推進してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

Wellness
Life Science
Research & Development

ウェルネス・ライフサイエンス研究所

〈WLS研究所の特長〉

●オープンリソース&アライアンス

参画企業は研究開発で得られた知見を共有し、相互に連携し、自由に新たな研究開発と事業活動を展開することができます。

●サステナビリティ

21世紀持続可能な日本社会の創出を目的とします。研究テーマはこれからの日本社会の根幹に関わるものとし、より良い形でその実現化を目指します。

〈WLS研究所SDGs基本方針〉

1. 趣旨

WLS研究所は、SDGsの17の目標を踏まえ活動を行う。

2. SDGsを取り入れた活動

- ① WLS研究所の活動についてSDGsとの関連付けを行う。そのうえで、持続可能な活動を深化させていく。
- ② 活動の長期目標の設定
各活動について、必要に応じ、2030年のSDGsの達成目標に合わせた長期で設定
- ③ 会員企業との連携による取り組みの実施
会員企業が産官学の連携を組みそれぞれの活動での共有価値の創造に留意する。
- ④ 研究所内でのSDGsの推進
講演会やシンポジウムまたはセミナー等でSDGs活動を幅広く推進する。
- ⑤ 活動報告の発信
活動内容はWLS研究所の公式HPを活用し情報の共有化を図るとともに、広く外部への発信を行う。

〈WLS研究所の参画企業〉

WLS研究所では、理念に賛同して参画していただける企業を募集しています。

（理事会員企業）

Eat Well, Live Well.



花王プロフェッショナル・サービス株式会社

